

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4795600024		
法人名	医療法人 守礼の会		
事業所名	グループホーム あまね		
所在地	沖縄県南城市玉城字屋嘉部455番1		
自己評価作成日	平成29年1月16日	評価結果市町村受理日	平成29年 4月21日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/47/index.php?action=kouhyou_detail_2016_022_kani=true&JizyosyoCd=4795600024-00&PrefCd=47&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 介護と福祉の調査機関おきなわ		
所在地	沖縄県那覇市西2丁目4番3号 クレスト西205		
訪問調査日	平成29年 2月27日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当ホームは自然に囲まれたのどかな環境や家庭的な雰囲気の中、健康を維持し、個々の残存機能を最大限に活用できるよう利用者のペースに合わせた介護を実践し、楽しみの持てる時間を過ごして頂ける環境づくりに努めております。また、地域住民との交流を企画(カラオケや認知症予防体操、勉強会など)したり場所の提供を行っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は高台にあり、南に面した居室や玄関前の広場からは樹木の向こうに利用者が若い頃から馴染んできた海が見える。利用者が安心して生活できる環境づくりに配慮し、沖縄県まちづくり条例の適合施設に認定されている。医療関係者と連携して、利用者も一緒に認知症の勉強会等を実施している。共用の廊下は、“がんじょうロード”と名付けられ、利用者のできることを尊重しながら、本人のペースで歩行練習等が支援されている。事業所内では車椅子を使用しない支援をしている。地域の農家からラッキョウのこしらえ作業を引き受け、その手間賃でファーストフード店に出かけるなど、やりがい作りの機会を設けている。第2土曜日は美化活動の日と設定され、職員やボランティアも一緒に掃除を実施している。
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

確定日:平成29年 4月12日

自己 評価	外部 評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域から親しまれるグループホームを目指し、理念とその実行方法を職員一人ひとりが理解し、実践に移せるよう、毎朝のミーティングでは唱和を行い日々、確認しながら実践に努めている。	勉強会で地域密着型の意義をふまえた理念を周知し、今年度、「理念の実行方法」を追加している。各方法について、例えば「笑顔になる選択とは、利用者の笑顔を基準に考えよう」等、ミーティングで検討している。職員は理念を意識し、利用者のできることを尊重しながら、支援に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	少しずつであるが地域に事業所が周知されてきたことで外部からのボランティアを受け入れられる機会があった。また、地域住民が気軽に足を運べるように外出やイベントを企画したり努力している。	利用者は地域行事への参加時に地域住民と交流する機会がある。管理者が地域で認知症サポーター養成講座の講師を務め、介護の日は地域に呼びかけ、事業所で認知症予防体操や健康相談等を実施している。近隣からジャガイモやパパイア等、食材の差し入れもある。小学生の職場体験を受け、近隣の子どもが遊びに来ることもある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所を地域に開放したり、イベントの企画で地域住民の方に足を運んで頂き、認知症の理解を深めサポートできるように認知症サポーター養成講座を開催している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では家族の参加がしやすいようにチラシを配布したり、参加できなかったご家族へ関しては事業所内へ掲示したり、取り組みや活動内容の状況などを報告している。	運営推進会議は、認知症対応型通所介護と合同で年6回開催し、利用者と行政、地域代表は毎回参加、家族は1回の参加が確認できた。事業所の状況や外部評価等も報告し、議事録は事業所で公表している。委員から、そば作りの提案があり、利用者と一緒に買い出しから取り組んでいる。事故と思われる内容がヒヤリ・ハットとして記録されていることから、検討が期待される。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市が行う研修会や認知症サポーター養成講座、キャラバンメイト養成講座等へ積極的に協力するように努め、協力関係を築いている。	管理者は、市が主催する認知症サポーター養成講座の講師を務めている。職員3名がキャラバンメイトである。介護方法について、市より講師依頼を受け協力している。保健師や社会福祉士の助言により、医療機関と連携し、課題のある利用者の支援に取り組んだ事例がある。	

自己評価および外部評価結果

確定日:平成29年 4月12日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	事業所内の勉強会で介護マニュアルを活用し身体拘束の知識を深めたり、職員一人ひとりが自主的に学べるよう図書コーナーを設置し、身体拘束をしない介護に努めている。	身体拘束をしないケアについて、管理者や外部講師による勉強会を数回実施している。リスクについては利用開始時に家族に説明し、玄関は施錠せず、利用者が出ていく時は職員が見守りに対応している。視覚障害のある利用者のベッド近くにセンサーを設置している。事業所の玄関と廊下、居間にカメラが設置されている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	事業所内での勉強会や外部研修会の報告などで、高齢者虐待の知識を身に付け、虐待のない介護に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	資料はあるも、該当者がいなかったこともあり学ぶ機会がなかった。関係機関との協力により学ぶ機会をつくりたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は、契約内容を説明し、利用者や家族に疑問や不明な点がないかを再確認し、説明を行うことで理解、納得していただけるように心がけている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設定や、家族会での意見や要望などは、運営に反映させるようにし、そのことは運営推進会議などでも報告するようにしている。	利用者は全員、会話による表現が可能な状態であり、職員は利用者の想いを汲みとるよう努めている。家族の意見は、なかゆくい会(バーベキュー)や家族会、受診時等で聞く機会とし、家族との連絡用ボックスも活用している。利用者から、「丁寧な言葉を使って欲しい」との意見があり、検討して対応している。	

自己評価および外部評価結果

確定日:平成29年 4月12日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々、行っている朝、夕のミーティングや、申し送り、月1回開催している業務ミーティング等で職員の意見や提案を聞き、運営に反映させるようにしている。	職員の意見は朝、夕と月1回のミーティング時に聞く機会とし、なかゆくい会等の大きな行事の後には職員にアンケートを実施している。今年度、職員が各自の年度目標を設定し、管理者が面接して目標達成に向けた個別計画を策定している。職員採用時は利用者には朝の会で、家族には面会時に紹介している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人役員が頻繁にホームに訪れており、その際、職員の勤務状況や要望の把握、確認を行い、職場の環境条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	機会がある毎に、外部・内部研修に参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	関連事業所間での、現場研修を依頼したり、近隣の事業所職員との交流が図れるように取り組みをしている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人や家族の困っていることや不安、要望等を聞かせて頂き、安心していただけるようなサービスの提供を行うことで、良い関係づくりに努めている。		

自己評価および外部評価結果

確定日:平成29年 4月12日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の話をよく聞かせて頂き、本人、家族の不安が解消できるようなサービスを提供することで安心していただけるような関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人、ご家族を支援していく上で、必要と感じた際には、社会資源や他のサービスの活用など必要に応じた助言や提案ができるように努めている。(例:福祉用具の活用など)		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一人ひとりのできることや、能力に応じた作業に取り組めるよう日頃の本人の状況把握に努め、一緒に行うことで暮らしを共にするもの同士の関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族が来所の際には本人の状況や様子を報告し、機会をつくり一時帰宅の計画や、季節に合わせ衣替えの準備など家族にできる範囲で協力をいただいている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	以前の生活でよく利用していたスーパーに買い物企画をしたり地域行事などの情報を収集し外出企画を実施。馴染みの場所にできる限り出向いていける支援を行っている。	馴染みの人や場については、日常の会話やドライブ時に本人に聞いたり、家族や知人等からも情報を得て、把握に努めている。利用者の馴染みの岬に出向き、持参したおにぎりを食べたり、自宅周辺のドライブや地域で刺身を買う等の支援をしている。地域の図書館に出かけ、昔の写真が載っている本を借り、皆で見ることもある。	

自己評価および外部評価結果

確定日:平成29年 4月12日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ホールで入居者が座る位置等を考慮し、利用者同志で会話ができる様に配慮している。また、状況に応じ、職員が間に入るなど配慮し孤立しない様に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用を終了したご家族に対しても、他の方と同様に必要に応じ面会や電話相談など対応ができるよう家族との関係を築いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入所後の生活状況を観察したり、日々の会話などから本人から発せられたつぶやきなどを意識して受け止め、一人ひとりの思いや希望に沿えるよう努めている。	利用者の意向は、食事等、日々のケア場面で聞いている。普段の行動を観察し、お腹をさする等の仕草やつぶやきから推察して「○○なの？」と声かけして支援している。利用者の情報は、入居前の在宅時の様子もミーティング等で共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時の聞きとりの他、日常の会話の中で得た情報や、気づいた点、気になること等を家族に確認することにより、把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人のペースで一日を過ごしていただく中で、ミーティング・申し送り等で職員間の情報(様子や状態観察した事など)の共有し本人の力・状態等を把握する様努めている。		

自己評価および外部評価結果

確定日:平成29年 4月12日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	業務ミーティングや日々のミーティング・申し送り等で意見等を検討し、現状にあったケアができるようにしている。	職員は、朝夕、及び月1回のミーティングで利用者の状況について話し合い、介護計画に反映させている。計画作成にあたっては本人と家族、医療関係者の意見も反映させている。半年ごとにモニタリングを実施し、計画を見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	観察した現状を次のケアにつなげられるよう出来る限り本人の言葉を個別記録に残すようにしている。また介護方法の見直しなど、職員間で情報共有し活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	買い物や、外出、散歩に行きたい等の要望に応じて柔軟な援助を行っている。デイサービスとの交流も取り入れている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティア受け入れや、必要に応じて協力機関(地域包括支援センター、消防署など)に協力を求め応じていただいたり、訪問販売(パン・牛乳)の利用を取り入れている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からのかかりつけ医との連携により、健康面の管理を行ったり、身体面での変化があった場合には、報告させていただき適切な医療が受けられるように支援している。また受診が困難な利用者に対しては医療機関との連携をとっている。	受診は、かかりつけ医継続の方と訪問診療に変更した利用者がいる。受診は家族対応が基本で、必要時は管理者が同行している。受診時は、利用者の状態や症状の写真も添えた情報提供書を作成し、文書や口頭で医師や家族と情報交換をしている。全員が訪問看護と訪問歯科、訪問薬剤管理指導を利用し、医療機関と連携している。	

自己評価および外部評価結果

確定日:平成29年 4月12日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	委託先の訪問看護師には、日々の心身の状態や状況を報告し、助言や指示を受けながら利用者が適切な受診や看護が受けられるように支援している。夜間や休日等の緊急時の連携体制も取れている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時より医療機関との連携をとり、情報の交換や主治医、看護師等と十分な話し合いを行い退院に向けての取組みを行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	早い段階での意思確認は行っていないが、心身の状況が悪化してきた際には、訪問看護を含め家族に理解しやすいように説明を行い、段階に応じて他職種との連携をとりながら主治医を含め方向性を立て支援に取り組んでいる。	重度化や終末期に向けた方針については、利用者の状態に応じて、訪問診療の医師や訪問看護の看護師等と相談し、一緒に家族に説明している。医療連携を充実させ、看取りの実施に対応できる体制作りに取り組んでいる。指針の作成はこれからである。	事業所としての方針を指し示す上でも、指針の作成を行うとともに、作成された指針の共有が望まれる。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署の協力を得て、訓練を受け緊急対応の研修会を実施。実践力を身につけるようにしている。(年2回、3月、9月に実施。)		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回定期的に防災訓練を行っているが、今回は練習不足もあり計画通りに実施することができなかった。夜間を想定した避難訓練や地域を含めた訓練が実施でいなかった為、今後、次の訓練時に実施を検討している。	昼間想定総合訓練と消防署立ち会いの避難訓練を実施している。訓練の1か月前から職員と利用者が一緒に、災害時の避難方法などを練習し、訓練には地域住民も参加している。台風接近時はミーティングで話し合い、厳重な対策を行っている。「防災用品リスト」を作成し、備蓄は2日分となっている。	夜間想定を含めた年2回以上の訓練の実施、及びあらゆる災害に対するマニュアルの整備が望まれる。

自己評価および外部評価結果

確定日:平成29年 4月12日

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の自尊心を傷つけるような態度や言葉づかいは避けるように配慮している。	職員は、利用者と目線を合わせて敬語で話すように心がけ、利用者の声を受けとめ、本人のやりたいことを支援している。同性介助を原則とし、接遇や言葉遣いについては外部講師を招いて利用者も一緒に勉強している。不適切な態度や言葉遣いについて職員同士で話し合っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いや希望を確認したり、表せない方は、表情やしぐさなどから思いをくみ取り自己決定に近づけるよう努力している。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	できるかぎり一人ひとりのペースで過ごせるように配慮している。また、活動を行う際は、参加されるかどうか確認する様にしている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洋服のコーディネート等は、本人に任せ、おしゃれができるよう支援している。散髪は、なじみの美容師に来ていただいたり家族ボランティア、要望があれば職員が支援している。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の嗜好等の把握に努め、地元の食材を利用し、献立を立てている。誕生日には皆でケーキのトッピングを行い祝ったり利用者の能力に応じて、食事の準備や配膳、片付けなど、一緒に行っている。	3食事業所で調理し、利用者は玉葱の皮むきや盛りつけ、エプロンや食器の片付けなどに参加している。職員も利用者と一緒に食事をし、カレーパーティー、ドライブ時に天ぷらやハンバーガー等の外食を実施している。利用者の嫌いなメニューには代替食材で対応し、嗜好を反映している。朝食時には、自家製ヨーグルトを提供している。		

自己評価および外部評価結果

確定日:平成29年 4月12日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食の食事量のチェック・記録を行っている。水分摂取に関しては、活動の合間に時間を決めて水分摂取の声かけを行ったり摂取量が少ない方には声掛けなどを行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後には、声かけを行い口腔ケアを実施。出来る限り本人に行ってもらいが、必要に応じて仕上げ磨きをしたり、定期的に義歯の洗浄などの支援をしている。口腔内の不具合に関しては速やかに訪問歯科との連携を取っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄のパターンを把握できるように努め、できる限りトイレで排泄できるように支援している。オムツの勉強会を実施し、本人の排泄状況に合わせたオムツの選定を行い経済的にも負担がかからないように配慮している。	利用者の状態に応じ、排泄チェックや声かけをし、トイレでの排泄を支援している。利用者に洋式トイレの使い方を伝え、足置きで便器の高さに対応している。オムツの勉強会を実施し、夜間は睡眠を優先した支援を行なっている。自然な排泄への取組として、いきいき体操やラジオ体操、マッサージなどを実施している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘にならないように排便の状況を確認している。利用者も含め便秘予防の勉強会を実施し、適度な運動を日課の中に取り入れている。状況によって主治医に相談し、薬の調整を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週3回を目途に入浴の声かけをさせて頂いている。入浴の時間は、声をかけ本人の希望に沿って入浴させて頂いている。入浴時は、なるべく同性の職員で入浴介助できるように配慮している。	入浴は週3回を基本とし、声かけをして利用者が希望する時間帯に支援している。訪問マッサージの前に入る利用者、毎日入浴する利用者、1日に2回入る利用者もいる。同性介助による支援としながらも、浴室への移動時はバスタオルで身体を巻くなど、利用者の羞恥心に配慮している。	

自己評価および外部評価結果

確定日:平成29年 4月12日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	自分である程度判断できる方には、自分のペースで過ごしていただいている。引きこもりや身体機能の低下が懸念される場合は、状況によって時間時間で活動への参加を促したり離床できるように工夫している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの服用している薬の効能を知り、主治医の指示通りに内服できるよう支援している。薬の説明書は、いつでも目を通せる場所にあり職員全員に周知している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	これまでの生活歴や個人の興味や好きなことを探り、共同生活の中で役割を持っていただき本人の楽しみ事を増やしていけるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ふるさと訪問や、個別でのドライブ、全体的な外出企画などで屋外に出る機会を設けている。また、その日の天候や体調に合わせ、施設周囲の散歩なども実施している。	普段は事業所周辺の散歩、花や苗木の買い物に出かけている。外出は利用者のニーズに応じて、場所変更したり、少人数に分かれての支援をしている。月1回、リフト車や大型バスで出かけ、全員参加の初詣や桜祭りなど、遠出の外出支援もしている。玄関前や海に見える駐車場の草むしりや外気浴をする利用者も多い。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的に所持金はお小遣い程度で、個人で金銭管理をできる方は個人に任せている。金銭管理に支援が必要な方には、お小遣い帳を作成し、ホームで管理している。		

自己評価および外部評価結果

確定日:平成29年 4月12日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	希望時にはいつでも電話や手紙のやりとりができるように支援している。季節のご挨拶(年賀状など)の作成をしていただいたり支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は、明るく清潔が保てるよう、清掃箇所を職員で分担して行い、清潔の保持に努めている。その他、湿度管理や定期的な換気、温度調整などで心地よく過ごせるように工夫している。また、季節を感じられるように飾りなどの工夫をしている。	居間兼食堂は組み合わせ自由なテーブルを配置し、壁側にもイスやソファを並べ、利用者が新聞や本を読み、横になることができるようにしている。廊下を「がんじゅうロード」と命名し、名所旧跡の写真を貼って歩行練習が楽しめる工夫をしている。トイレや浴室、居室入り口はわかりやすく表示され、利用者は職員と一緒に掃除をしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間を食堂、ソファコーナーなどを設けている。利用者には本人の判断で好きな場所で過ごせるようにしている。必要に応じテーブルの配置換えや席替えなども行っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際に、本人の使い慣れた物があれば持参していただくように説明しており、人形や生活用品を持ち込んでいただき、その人らしい部屋づくりをしている。	各居室には、ベッドとエアコン、温度計、呼び出しコールなどが設置され、利用者はハンガーラックや棚、鉢植え、写真、絵、人形、クッション等を持ち込んでいる。利用者の要望や状態によっては、居室を変更する等の対応も行っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内は、バリアフリー設計。手すりの設置や、本人の機能に合わせた補助具等の使用や施設設備の工夫をしている。また、自立を援助するためトイレや浴室の入口がわかりやすいよう表示にも配慮している。		

(別紙4(2))

事業所名 : グループホーム あまね

作成日 : 平成 29 年 4 月 20 日

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先 順位	項目 番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に 要する期間
1	54 (20)	夜間のみ使用している居室内のポータブルトイレだが、来所された方が廊下を通る際に、目に触れてしまう状況がある。一名は木目調のものを使用しトイレと分かりにくく工夫している。もう一名は重度の視力障害があるため動線に合わせて設置している状況があり頻繁に動かせない。	日頃から居室内が見えないようにプライバシーに配慮する。	両者とも視力障害があるため布を掛けると転倒につながる危険性がある。来所された方との視線が気にならないようにカーテンを閉める。ドアを閉める。などの工夫を行う。	12ヶ月
2	9	契約時に用いる契約書の内容に誤字、脱字がある。また、個人情報を利用する範囲や、利用者の権利確保に関して追加や検討が必要。	契約時の書類について追加、見直しを行う。	契約書内容の変更や追加にあたり、早急に起案書を作成し決裁を仰ぐ。	3ヶ月
3	35 (13)	年2回の消防訓練だが、夜間を想定した消防総合訓練が実施されていない。	予期しない災害や夜間を想定した消防訓練を計画的に実施する。	同地域や関連事業所間で夜間を想定した消防訓練を実施した事例を参考に避難の方法を検討し、実施に向けた取り組みを行う。	12ヶ月
4	33 (12)	重度化した場合や終末期に関しては、段階に応じて医療との取りながら支援しているが事業所としての指針が作成されていない。	入居者が重度化した場合や終末期のあり方について事業所としての指針を定める。	重度化した場合や終末期に関しては、本人、ご家族が安心してサービス提供が受けられることと、各関係者(職員、医療機関、各専門職など)との連携を円滑にするために事業所としての指針を作成し共有する。	12ヶ月
5	4 (3)	運営推進会議議事録の参加者について、利用者のご家族、関係者がわかりにくい。	議事録は第三者が見ても分かりやすいように記録を残す。	議事録は、様式の作成を行うことで参加者や関係者がわかりやすいように工夫する。	12ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。